

總

索

引

凡 例

本索引は十六夜日記に用いられているすべての語を検索する目的で編んだものである。

一、本文について

この索引の本文は、本書所収校本の底本に用いた細川家永青文庫蔵「いさよひの日記」によった。

二、索引の構成

本索引は一般語彙篇と助詞・助動詞篇の二篇及び和歌索引からなる。

三、一般語彙について

(1) 見出し語

- (イ) 見出し語は原則として単語単位としたが、句として示す方が適当と思われるものは《連語》として示した。
- (ロ) 語の配列は歴史的仮名づかいに統一し、五十音順とした。但し底本が歴史的仮名づかいでない場合は、その形で見出し語を設け、例えば「おかし→をかし」の如くした。この場合、底本は「おかし」であるが、歴史的仮名づかいに統一したため「をかし」の項を見よという意である。

- (ハ) 見出し語には適宜(ハ)内に漢字をあて、その下に(ヘ)をつけて品詞名を記入した。但し、品詞名は用言にはすべて記したが、その他の品詞では、その必要を認めないものは省略した。品詞名は名詞は《名》形容動詞は《形動》のように略符号を用いた。なお動詞だけは、活用の種類をも略符号で併記した。

- (ニ) 訓み方によって、両用に訓みうる場合には、つとめて両用の見出し語を掲げた。ただその場合「はちぐわつ

→はづき」「はつかあまりいつか→にじふごにち」のようにして、いずれか一方を見るように示した。

(外) 用言の活用形には、未然形は[㊦]、連用形は[㊧]、終止形は[㊨]、連体形は[㊩]、已然形は[㊪]、命令形は[㊫]のような略符号を用いた。なお用言にのみ四・五文節程度の例文を付した。但し、特に例文をつけるが望ましいと思われるものに限って用言以外でも例文を付したものもある。

(ハ) 見出し語の所在は例えば次のように示した。

(a) あげほの(曙)七ウ③

「曙」という語が底本の七丁の裏三行目にあるということ。

(b) あさぎり(朝霧)二〇オ*⑧

「朝霧」が廿丁表の八行にあり、この語は歌(短歌)の中の語であるということ。

(c) あさ(麻)三七オ*③

「麻」という語が卅七丁の表三行目にあり、この語は長歌の中の語であるということ。

(b)・(c)に示すように作品中の短歌のなかの語には「*」を、長歌の中の語には「※」を横に付した。

(ロ) 底本の本文には濁点は施されていないが索引の当該見出し語には、すべて必要に応じて濁点を施すことにした。

(ハ) 例文は、仮名づかい、濁点などを顧慮せず底本のままを記し、当該の語をゴシック体で示した。

(2) 単語の取り扱いについて

単語の認定は、なるべく普通の説に従ったが、特に注意すべきものは次のとおりである。

(イ) 接辞のついた語は原則としてそのついたものを単位としてかかげた(例えば「うちきす」「うれしき」の如く)。ただ「御」「たち」「ども」など、いくつかはそのついていない見出し語の中で「御」「―ども」のような小

見出しによって示した。なおその場合「おん」「たち」「ども」などの項に、それらのついた語をcfとして示した。

(ロ) 「給ふ」「奉る」「候ふ」などの敬讓語の補助動詞は、一般語彙篇に入れた。

(ハ) 掛詞の場合は一方を普通に示し、他方はその所在を()に入れて示した。

(ニ) 副詞や体言などで、下に助詞などを伴って用いられているもののうちいくつかは、下接している語によって小見出しをわけたものがある。例えば「さ」の項にへーしもへーぞへーのみへーはの如く「やう」(様)の項にへーなりへーにの如く。これらの場合「さ」「やう」を一語とし、下接の語は、更に助詞・助動詞篇でその所在を示したものである。

(ホ) 助詞「ばかり」が下接して、しかも終止・連体の識別困難なものは、連体形に入れた。但し本索引ではその例は、二三才⑧「おもふ計」一例である。

(ヘ) いわゆる完了の助動詞「り」の下接している四段活用語は命令形とした。

(ト) 「夜」は「よ」「よる」の項目をたてたが、「よる」と仮名書きのものだけ「よる」の項に入れた。なおその際「よる」「よ」の項に各「よ」「よる」のある事をcfで示した。

(3) 複合語について

認めうる限り複合語をたてる立場をとった。ただ複合した例の多い語でも、語と語の間に助詞などが入っている場合は、これを分けた。例えば「思ひ出づ」は一語としたが、「おもひもいでは」などの場合は「おもひ」と「いづ」とに分けた。但しこのような場合「おもひいづ」の項にも「へ」内にその所在を示した。

複合語は複合の後項の単語の項にもcfとしてその所在を示した。例えば「思ひ出づ」の場合「いづ」の項に「cf おもひー」の如く示した。

(4) その他

他の項を参照するとよいと思われる場合は、cfとしてその項の存在を示した。

四 助詞・助助詞篇について

(1) 見出し語

(イ) 助詞と助助詞は区別せず五十音順に配列した。

(ロ) 語の所在の示し方は、一般語彙篇と同じであるが、助詞・助助詞篇では、すべてに例文をつけた。ただし、短歌、長歌などの区別はしなかった。

(ハ) 使用の便を考えて接続や意味により、ある程度分類したものもあるが、その場合、小見出しに分類のしかた及び参照項目等を掲げた。

(ニ) 「文中」「文末」という小見出しによる分類をした場合、「文末」の項の中には、下に省略が考えられるような場合でも、文末にある場合「文末」の項に入れた。例えば「浦人のしわざにや」の「や」は「文末ニ用イタモノ」の項に入れた。

(2) その他

その他一般語彙に準ずるものは特記しないので類推されたい。

五 和歌索引について

和歌索引は短歌だけに限り、初句により五十音順に配列し、その所在を示した。

一般語彙篇

あ

あか(赤) (一〇ウ*⑧)

あかし(明石) 三六オ*①

あかし(赤)《形》

—き 罫一〇ウ⑦ はしとあしとあかき

は

あかす(明)《動四》

cf ながめ—

あかつき(曉) 一二オ⑦・一四ウ⑥・二

四オ④・二八オ②

あがる(上)《動四》

—れ 罫三六オ*⑤ くかにかかれるう

を

あき(秋) 三三オ*⑩・三四ウ③

あきらけし《形》

—き 罫三七ウ*③ あきらけきよそ

あく(飽)《動四》

—か 罫一〇ウ*⑧ あかさりし我すむ

かた

あく(開)《動下二》

—け 罫三五オ*⑤ 岩戸をあけて

あく(明)《動下二》

—くる 罫九オ① あくるまゝに

あく(上)《動下二》

cf きこえ—

あくがれいづ(憧出)《動下二》

—で 罫二一オ*③ あくかれ出しいさ

よひの月

あけがたし(明難)《形》

—き 罫一八ウ*⑧ あけかたきよこ雲

の空

あけはなる(明難)《動下二》

—れ 罫一七ウ⑧ 明はなれて後

—る 罫二〇オ① 明はなるゝ海の

うへ

あけぼの(曙) 七ウ③・二六ウ*⑨

あさ(麻) 三七オ*③・三八オ*⑥

あさかは(朝川) 一七ウ⑧

あさきり(朝霧) 二〇オ*⑧

あさし(浅)《形》

—けれ 罫九オ⑩ 浅ければ

あさひ(朝日) 六オ*⑤

あさひかけ(朝日影) 三七ウ*②

あさゆふ(朝夕) 一七オ⑥・二一ウ④

三三オ*④・三七ウ*⑤

あざり(阿闍梨) 一五オ⑨

あざりのきみ(阿闍梨君) 五オ⑩

あし(足) 一〇ウ⑥*⑧・一九オ③

あし(悪)《形》

—く 罫八ウ④ 道もいとあしくて

あしおと(足音) 七ウ④

あしから《不詳》残・群本「あしはら」

三六ウ⑤ あしからの道もすたれ

て

あしがらのやま(足柄山) 一九オ*②

あしがらやま(足柄山) 一八ウ⑨

あしたづ(葦田鶴) 三三オ*⑨

あす(明日) 一九ウ⑨・二二ウ④・二三

オ⑨

あす(浅)(動下二)

―せ困一五オ③ 水いとあせて

あそん(朝臣) 一七オ③

あだなり(形動)

―なら困三ウ⑨ あたならぬかきり

―に困四オ*⑦ よもあたにはならし

五オ*⑥ あたにたくなみたは

かけし

―なる困一ウ② あたなるすさひ

あたり(辺) 一二オ*④

あづかりもつ(預持)(動四)

―も困二オ③ あづかりもたる事あれ

と

あつたのみや(熱田宮) 九ウ⑩

あづま(東) 二二ウ④・二〇ウ②

あづまち(東路) 一四ウ*⑩・一九オ*⑨

・二二ウ③・二七オ*②*④・二七ウ

*⑦・三〇オ⑦・三三オ*②・三四ウ

*⑥

あつむ(集)(動下二)

cf かき―・つつみ―・とり―

あと(跡) 一オ⑥・二オ①⑦・四オ*⑤

*⑧*⑩・一六オ⑤・一八ウ*①・三

五ウ*⑤・三六ウ*④

cf ふでの―

あととむ(跡留)(動下二)

―め困一〇ウ*④ 世中に跡とめむと

は

あとなし(形)

―く困三七オ*③ あさは跡なくなり

ぬとか

―き困三八オ*⑥ 跡なきあさの数し

らは

あなかしこ(連語) 四オ*④

あながちなり(形動)

―に困三ウ① あなちちにうちくつし

たる

四ウ④ あなちちに思ひしりて

三一オ① あなちちにつくみ給

三一ウ⑨ あなちちにたよりた

つね

あに(兄) 五オ②・五ウ①

あねぎみ(姉君) 二四オ⑥・二四ウ⑨・

二五オ②

あは(泡) ―あわ

あはす(合)(動下二)

cf くみ―

あはたぐち(栗田口) 六ウ⑤

あはれ(名) 二三ウ*⑨

あはれなり(形動)

あはれへと 一〇オ*⑦ 神やあはれ

とみるめたつねて

一八オ*⑨ あはれとやみしま

の神

三一ウ③ 哀ともおほさん

―に困四ウ⑧ ものよりことに哀にて

六オ⑧ いとあはれにかきて

六ウ③ 哀におほゆるまゝに

一五ウ② 哀にもやさしくもお

ほゆ

二二オ⑦ いとやさしくあはれ

にて

二四オ⑥ 哀にたのみかはした

る

二四ウ⑧ 哀にてみれば

二五ウ③ いと哀にもおかし

―なり四一三ウ④ 返々哀なり

一四ウ③ 心ほそく哀也

―なる四四ウ① 心やすく哀なるにも

五オ⑩ さま／＼あはれなる

を

三一オ② あはれなることゝ

も

―なれ四三三オ② 心をやりて哀なれ

は

あひしらふ(動四)

―ふ四一三ウ⑧ よひいてゝあひしら

ふ

あふ(合・逢)(動四)

―は困一七ウ⑦ めもあはす

―ふ(六ウ*)⑨ 又あふさかとたのめ

て

cf てんー・めぐりー・ゆきー

あふ(敢)(動下二)

cf かきー・きこえー・しー

あふさか(逢坂) 六ウ*⑨

あふさかのせき(逢坂関) 六ウ⑦

あま(尼) (二四ウ*)⑦

あま(海人) 一九オ⑦・一九ウ④*⑤・

二八ウ*①*⑥

―ども 一八オ③

あまうへ(尼上) 二四ウ③

あまごろも(海人衣) 一八オ*④

あまた(数多) 五ウ⑦・一五ウ③・二〇

オ⑥・二二ウ①

あまたこゑ(数多声) 三〇オ②

あまのいはと(天岩戸) 一ウ④

あまひと(海人) 二四ウ*⑦

あまる(余)(動四)

cf あもひー

あまをふね(海人小舟) 二〇オ*⑦

あめ(雨) 八ウ③*⑦⑨・九オ②・三五

ウ*②

あめかせ(雨風) 一〇オ*⑧

あめつち(天地) 三五オ*④

あやうし(形) ↓あやふし

あやし(形)

―う(音) 二八オ① あやしうほればて

たる心地し

―く(音) 三二ウ⑥

てんあひぬるもあやしく心のやみのひが

目こそ

―き困一六オ⑥ あやしきつかけの小枕

あり

三〇ウ⑩ あやしき歌よみて

三二オ⑥ あやしきまで音つれ

もたえて

あやふし(形)

―く(音) 二一オ⑩ あやうく心ほそきなか

ら

―き困一一オ*⑥ くもてあやうき八

はしを

二八オ⑧ あやうきほとこのこ

ろほそき

―けれ四九オ⑨ あやうけれとわたる

あやめ(文目) 一二オ⑤

あらいそなみ(荒磯波) 一七オ*②

あらし(嵐) 三オ③・一四ウ①

あらし(荒)(形)

―し四二〇ウ③ 風いとあらし

あらそふ(争)(動四)

cf きえをー

あらはる(現)(動下二)

―る(音) 二ウ⑤ くもらぬ影もやあら

はるゝと

あららかなり(形動)

―に困五オ⑧ あらゝかにものいひま

きははす

あり(動・補助動う変)

―ら困一オ⑩ さてしもあらて

一ウ③ 思ふ人もあらん

二ウ⑩ さそふにもあらず

三オ① もとむるにもあらず

三オ⑦ とゝまるへきにもあら

て

ハウ⑩ かよふへくもあらねは

九オ⑧ まさきのつなにあら

ん

一〇オ*⑨ さはりあらずな

二三オ④ たよりあらはと

三一オ⑦ 歌のやうにもあらず

三六ウ*⑩ いふ人あらは

三八オ② 御せうにはあらて

―り困一ウ⑩ ありかたくや有けむ

二オ③ いかなるえにかありけ

ん

九ウ*① ふかき心はありなか

ら

一〇ウ⑦ この浦にもありけり

一六オ③ 人のなきやとも有け

り

二〇オ⑥ あまた有つるつり舟

三〇オ⑧ ならひにや有けん

三〇オ⑨ きく人有けるこそ

―り困四オ⑥ かへりこといとくあ

九オ③ 目にたつ杜あり

九オ⑨ うき橋あり

一〇ウ⑤ わたりにこそありと

きゝ

一四オ⑥ 水の井あり

一五オ*① あつまちにありと

一六オ⑥ つけの小枕あり

一九オ⑤ はや川といふ河あり

二四オ④ たよりありときゝ

二五ウ⑨ たよりありとつけた

る

二七オ⑩ 心ちしてなとあり

二九オ⑦ 返事又あり

―る困六ウ① やまとなてしことそあ

る

一一ウ⑩ 竹のある所に

一八ウ*① 跡もあるものを

一八ウ*④ 山のかひあるしる

へ

一九ウ④ 家のみそある

二三ウ⑩ しらぬとある御返事

二四オ⑨ あるまゝの事を

二五オ⑤ しはやくとある返事

三二ウ⑦ ひか目こそあるらめ

三二ウ⑩ しら雲とある歌を

三三オ⑨ 露けきとある所にも

三六ウ*④ 世々の跡ある玉つ

さも

―れ困二オ④ あつかりもたる事あれ

と

二三ウ⑩ あはれをそしるとあ

れは

二五ウ⑨ つけたる人あれは

二八オ⑤ たよりあれは

二八ウ⑩ たよりあれは

cf かひ―

ありあけのかげ(有明影) 一二オ⑦*⑩

ありあけのつき(有明月) 一二ウ①*④・

一四ウ*⑧・二二オ*④

ありがたし(形)

―く困一ウ⑩ ありがたくや有けむ

ありがほなり(有顔)《形動》

―に困三ハウ*② もとの心のありか

ほに

ありし(連語) 二〇ウ⑨・二九オ*⑨

ある(荒)《動下二》

―れ困二二ウ⑥ 浦風あれて

一四オ⑤ 里あれて

一六ウ⑨ 風いとあれて

一七ウ⑦ あれたる音

三六ウ*③ 軒はもあれて

あれまさる(荒勝)《動四》

―り困三オ⑧ あれまさりつる庭

あわ(泡) 一四オ*②

あをぢ(青地) 一一ウ③

あんかもんあん(安嘉門院) 二二ウ②・二五ウ①

い

いかが(如何) 六ウ⑤・二三オ⑨

いかさまなり《形動》

―に困三六ウ*③ いかさまにかはな

りぬらん

いかなり(如何)《形動》

―に困四ウ*⑦ いかにそなたの空を

なかもん

ハウ*② 月もいかにもるらん

一二オ① いかにして

一七オ④ いかになるみの浦な

れは

一九オ⑦ いかにとへは

二一ウ*⑦ しくるるほとやい

かにと

二六ウ*⑥ いかにして

二七オ*⑤ はなやいかにと

三四オ*⑧ いかにそひけん

三六ウ*⑥ いかにせん

―なる困二オ③ いかなるえにかあり

けん

いかばかり(如何) 三二オ*④・三三ウ

*⑤

いきうし(行憂)《形》

―し困三オ⑥ いきうしとても

いく(生)《動四》

―け困三五ウ*⑩ いける世の

いく(行)《動四》

cf ゆく

いくかさね(幾重) 一六ウ*④

いくせ(幾瀬) 一五オ*⑧

いくり(幾里) 一五オ④

いささか(訓) 二四ウ④・三七オ*①

いさめ(諫) 一オ⑥

いさめおく(諫置)《動四》

―き困三七オ*③ いさめ置しを

いさよひのつき(十六夜月) 二二オ*③

*⑩

いさよふつき(十六夜月) 二ウ⑧・二一

オ⑥・二五ウ⑩

いさり(漁) 一八オ③

いし(石) 一五オ*⑧

いそ(磯) 二四ウ*①・二五オ*①

いそぎいづ(急出)《動下二》

―で困二二ウ⑧ いそぎ出しにも

いそぐ(急)《動四》

―ぎ困三オ⑦ いそきたちぬ

二七オ⑦ いそきたるつかひ

―ぐ困一五ウ③ いそく道なりと

―げ困一八ウ*⑦ いそけとも

いそもの(磯物) 二四ウ④

いそやまかせ(磯山風) 二七オ*②

いたし(甚)《形》

―う困二六オ⑥

いたす(出)《動四》 いたう程もへす

―さ困一九オ⑧ 浦へいたさんとて
いたづらなり《形動》

―に困二四ウ*⑥ 徒にめかり塩やく
二八ウ*① いたづらにあまの
塩やくけふり

いたびさし(板庇) 八オ⑩

いちのみや(一宮) 九ウ⑤*⑦

いつ(何時) 一二オ⑧・一七オ⑦・一七
ウ*②・三〇オ*⑤

いづ(出)《動下二》

―で困二七オ*④ おもひもいては

―で困二ウ⑨ さそはれ出なんと

七ウ③ もり山をいてゝゆく

七ウ⑨ 月出て

八ウ⑧ こゝをいてゝゆく

一オ⑧ 八はしをいてゝゆく
に

一二オ⑦ あり明の影にいてゝ
ゆく

一二オ*⑨ 月のみやこをいて
しかと

一二ウ*③ みちにや出つらむ

一四ウ⑥ 月も出にけり

一五オ② きく川をいてゝ

一五オ⑤ 水のいてたらんおも
かけ

一六オ④ 出し跡の月影

一八ウ⑤ いつのころをいてゝ

一九ウ① 浦にいてゝ

一九ウ⑩ さかはをいてゝ

二〇オ② 月出たり

二〇オ*④ 浪間よりいてゝ

二一オ⑤ 都を出し事は

三六オ⑥ 都を出しかと

cf あくがれーいそぎーうちー・
おもひーたどりーとりーも

とめーよびー

いづく(何処) 三三オ*④

いづこ(何処) 一九ウ③

いつしか《連語》 二〇ウ⑤

いつつ(五) 六ウ①・一〇オ①

いづのおほしま(伊豆大島) 一九ウ②

いづのこう(伊豆国府) →いづのこふ

いづのこふ(伊豆国府) 一八オ⑥・一八
ウ⑤

いつはり(偽) 三六ウ*⑩

いでたち(出立) 五オ③・二二ウ⑥

いでたつ(出立)《動四》

―た困五ウ② いてたゝめるを
いと《副》 三ウ②・四オ⑥・四ウ①・五
オ④・六オ⑧・六ウ②・七オ①・七
ウ①⑤⑩・八ウ④・九オ⑨⑩・一〇
ウ①⑩・一一オ⑧⑩・一二ウ⑤⑥⑩
・一三オ⑤・一三ウ⑨・一四オ⑩・
一四ウ⑨・一五オ③⑤・一五ウ①・
一六オ①⑥・一六ウ②⑦⑨・一七ウ
⑧・一八オ②・一九オ③・一九ウ⑦
・二〇オ①・二〇ウ③・二一オ⑦・
二四ウ⑧・二五ウ③・二八ウ⑦・三
二ウ⑤・三三オ①

いとど《副》 七オ*⑨・八ウ⑨・一四オ
*⑧・二二オ*④・三二オ⑨・三四ウ
④・三七ウ*②

いにしへ(古) 三三オ*③

いのち(命) 二オ⑧・六ウ*⑧・一三ウ
③・三六オ*③

いのる(祈)《動四》

―る困一〇オ*② いのるそよ
あさ夕いのる君か
三七ウ*⑤

世を

いは(岩) 一三オ⑥*⑦・一六ウ①*③

いはと(岩戸) 三五オ*⑤

cf あまのー

いひこしらふ(言替)(動下二)

ーへ 四三ウ③ さま／＼いひこしらへ

いふ(言)(動四)

ーは 困一八オ⑥ いはまほしき

三三ウ⑩ いはれたり

ーひ 四一三オ⑩ はま松とそいひし

一三ウ① したしといひしはかりの

り

一六ウ⑧ いひける人

ーふ 四一三オ④ とゝまらんといふ

一一ウ④ みやちの山といふ

一三ウ⑧ 天りうのわたりといふ

ふ

一九オ④ ゆさかといふなる

一九オ⑧ なかす也といふ

一九ウ⑨ かまくらへ入へしといふ也

いふ也

二〇ウ② とそいふなる

ーふ 四六ウ⑥ あはたくちといふ所

六ウ⑩ のちといふ所

七オ⑤ かゝみといふ所

七オ⑥ もり山といふ所

七ウ⑧ をのゝ宿といふ所

八オ② さめか井といふ水

八ウ⑤ むまやといふ所

八ウ⑨ ひら野とかやいふ程

九オ⑦ すのまたとかやいふ川

九ウ⑤ 一宮といふやし

九ウ⑨ おもとゝいふむまや

一〇ウ⑥ みやこ鳥といふ鳥

一二オ⑥ わたうとゝかやいふ所

所

一二ウ② かさきたりといふを

きゝ

一三オ① 鶺鴒といふ鳥

一三オ④ かもめといふ鳥

一三オ⑨ ひきまのしゆくといふ所

ふ所

一四オ④ 見つけのさとゝいふ

所

一四オ⑩ とのまくとかやいふ

やし

一四ウ③ きく川といふ所

一五オ② 大井川といふ河

一五ウ⑩ てこしといふ所

一七ウ⑥ なみのうへといふ所

一八オ⑥ 伊豆のこうといふ所

一九オ⑤ はや川といふ河

一九ウ③ いつことかいふとへは

へは

一九ウ⑦ まりこ川といふ河

一九ウ⑧ さかはといふ所

三〇オ② ひきのやつといふ所

三〇オ③ いふをきゝて

三六ウ*⑩ いふ人あらは

三七ウ⑦ かこちけるといふ所

三七ウ⑩ こしへのしやうといふ所

ふ所

三八オ④ よもきのみしてといふ御歌

ふ御歌

ーへ 四九オ④ きこゆるといへは

一五ウ③ 道なりといへは

cf ものー

いへ(家) 一ウ⑩・二オ⑧・一九ウ④

いへいへ(家々) 二二オ⑩

いま(今) 一オ②・八オ⑩・二二ウ②・

二五オ③・二九オ*⑥・三六オ*④

いまさら(副) 三ウ④

いまだ(副) 七ウ②・一八オ⑦・一八ウ⑥

⑥

いやし(形)

—き 困三五ウ*⑧ いやしきしなのな

る

いりはつ(入果)(動下二)

—て 困二二オ⑤ 日は入はてゝ

いる(入)(動四)

—り 困二二ウ② たひく入給へり

二二ウ① 歌あまたいり給へる

人

三八オ③ 新勅撰に入て候やら

ん

三八ウ⑤ 新勅撰に入て候

—る 正一三オ⑤ 水のそこへもいる

一九ウ⑨ かまくらへ入へし

—る 困一四ウ① ふかく入まゝに

cf たち

いる(色) 一一ウ*⑥・一三オ*②・一五

ウ*⑨・二七ウ*⑤

う

う(鵜) 一三オ①

う(得)(動下二)

cf まち

うかる(浮)(動下二)

—れ 困二二オ*⑩ 空にうかれしいさ

よひの月

うきなみ(浮波) 二二オ*⑩

うきはし(浮橋) 九オ⑨・九ウ*④

うきふね(浮舟) 九ウ*④

うきよ(憂世) 八オ*⑤・一四オ*②

うく(浮)(動四)

—き 困三〇ウ⑦ うきこかるゝ藻かり

舟

うく(受)(動下二)

—け 困一ウ⑨ 二たひ勅をうけて

—く 正一〇オ*⑤ 神もつくらむ

うぐひす(鶯) 二五ウ⑥

うし(憂)(形)

—き 困(九ウ*④) 身をうきふねを

二二オ*⑩

(二二オ*⑩) よもうき波はか

けもせし

cf いきー・うきよ

うた(歌) 二オ②・三ウ⑧・四オ①・六

オ⑧・六ウ①・一〇オ①・二二ウ①

③・二二ウ①・二六ウ①・三〇ウ⑩

・三一オ⑥・三二ウ③⑤⑩・三三オ

②・三三ウ②③④⑧・三四オ①③・

三四ウ③・三五オ*⑥・三八オ⑤・

三八ウ⑤

—ども 二六ウ②・三五オ②

御— 三八オ④

cf やまと

うち(内) 三ウ③・二七ウ*③

うちいづ(出)(動下二)

—づ 正一六オ④ あきつの浜に打いつ

一八オ② たこの浦に打いつ

うちぎき(打聞) 二二ウ①

—する 困一六ウ② 白きゝぬを打ちす

るやうに

うちきる(着)(動上二)

—き 困二二ウ*④ かさうちきたる有

うちくつす(屈)(動サ変)

明の月

—し 困三ウ② うちくつしたるさま

うちしぐる(動下二)

—れ 困七オ*③ 打しくれふるざとお

もふ

うちしほる(奏) —やうちしをる

うちしをる(奏)(動下二)

—れ 困四ウ③ 又打しほれぬ

うちすぐ(過)(動上二)

—き困八オ② 打過ましやとおもふに
うちそそぐ(注)《動四》

—く困七オ② しくれさへうちそく
うちつづく(続)《動四》

—き困二二オ⑩ 続後撰より打つゝき
うちはらふ(払)《動四》

—ふ困八ウ*⑥ みのうちはらふゆふ
くれ

うちふす(臥)《動四》
—し困七ウ② うちふしぬ

—一六オ⑦ 打ふしたるに
うちわたす(渡)《動四》

—す困七ウ*⑦ 駒うちわたすやすの
川きり

うづき(卯月) 二八ウ⑩ 卯月のはしめ
つかた

—二九ウ⑨ 卯月のすゑ
うつす(映)《動四》

—さ困二ウ⑤ 亀の鏡にうつさは
うつせがひ(月) 二七ウ*①

うつつともなし(連語)
—し困一五ウ*⑥ 我こゝろうつゝ共
なし

うつつやま(宇都山) 一五オ⑨・一五ウ

*⑥*⑧・二〇ウ⑥・二一オ*①
うつる(移)《動四》

—る困二九オ*④ 夏にうつる木すゑ
うひやうゑのかみ(右兵衛督)

cf さきの—
うへ(上) 一三オ⑥・二〇オ①⑤・二五
オ③

御—二三オ⑧
cf あま—みの—

うま(子孫) 一三ウ⑦
うまや(駅) 九ウ⑨

cf かさぬひの—
うまる(生)《動下二》

—れ困五ウ⑨ むまれ給ひしはかり
うみ(海) 一二ウ⑤・一六ウ⑤・二〇オ

①・二五オ⑦・二六ウ③
cf よつの—

うみづら(海面) 一九ウ③
うめ(梅) 二六ウ*⑧・三六オ*⑩

うら(裏) (二二オ*⑥)
うら(浦) 一〇ウ⑦・一九オ⑦・一九ウ

①・二〇オ*⑧・二〇ウ③・二五オ
*⑨
cf なるみの—わかの—

うらがき(裏書) 三七ウ⑦
うらかぜ(浦風) 一二ウ⑥・二二オ*⑥・
二六ウ*⑩

cf わかの—
うらなみ(浦浪)

cf しがの—
うらびと(浦人) 一六ウ⑥

うらみ(恨) 二ウ③・九オ*⑥・一八オ
*⑤・二三ウ*⑤

うらむ(恨)《動上二》
—む困二四オ*② なにうつらむらん

うらめし(形)
—けれ困三〇ウ① こそ…うらめしけ
れ

うらやまかせ(浦山風) 二六ウ*⑧
うららかなり(形動)

—に困一八オ② 日いとうららかにて
うれし(形)

—かり困五ウ*⑤ たちそふそうれし
かりける

うれしさ(嬉) 二三オ⑥
うれへ(愁) 一オ⑩

うを(魚) 三六オ*⑤

え

え(副) 一五ウ③

えだ(枝) 三五ウ*②・三六オ*⑩

えに(縁) 二オ③

えらふ(選)《動四》

― ぶ 困一ウ⑧ 集をえらふ人

える(選)《動四》

― り 困三ウ⑨ えりしたゝめて

えん(縁) ― へに

お

お(御) ― おん

おかし(形) ― をかし

あきつ(息津) (一六オ*⑩)

おきつのはま(息津浜) 一六オ④

おきめる(起居)《動上二》

― ん 困二四オ⑤ 夜もすからおきめて

二四ウ*① ひとりおき居て

二八オ② 暁よりおき居て

おく(奥) 六オ④・三三ウ②④

おく置《動四》

― き 困(三三オ*⑤) 思ひをきつる露

三二ウ① をきたりける人々の

文

cf いさめー・おもひー・かきー・し

るしー・ちぎりー・とどめー・ま

うしー・まゐらせー・むすびー

おく(起)《動上二》

― き 困一四ウ⑥ あかつきおきてみれ

は

おくがき(奥書) 三ウ⑨

おくる(送)《動四》

― ら 困五ウ② みちのしるへにをくら

ん

― り 困三三ウ⑧ 三十首の歌を送りて

― る 困三ウ⑩ 侍従のかたへをくると

て

― る 困一四ウ*⑤ 松風をくるさよの

中山

おくる(後)《動下二》

― れ 困二一オ*④ 月やをくれぬかた

みなるべき

おこがまし(形) ― をこがまし

おこす(遣)《動下二》

― せ 困二九ウ⑨ かきてをこせ給へり

cf おもひー

おこなふ《動四》

― ひ 困二五オ④ おこなひたる人也

おこる(発)《動四》

― る 困二七ウ⑩ 日ませにおこる事

おさなし(幼) ― をさなし

おさまる(治) ― をさまる

おさむ(治) ― をさむ

おし(惜) ― をし

おしはかる(推量)《動四》

― ら 困一五オ⑤ おもかけをしはから

る

おそろし(形)

cf そらー・ものー

おつ(落)《動上二》

― ち 困二八オ⑤ なこりなくおちたる

おと(音) 一七ウ⑦・二〇ウ⑤

cf かはー

おとうと(弟・妹) 二四ウ③・三三ウ⑦

おとうとのきみ(妹君) 二五オ⑤

おとづる(訪)《動下二》

― れ 困二七オ⑥ いかにとをとつれ

てまし

おとづれ(訪) 一五ウ⑤・二〇ウ⑤・二

一ウ⑤・二二ウ⑧・二五ウ⑩・三二

オ⑦

おとづれく(訪来)《動力変》

— 二困二五ウ⑥ をとづれこす

おととい(姉妹) 二四ウ⑧

おとなし《形》

— 一困六オ① おとなしくおはすれば

— 一けれ四ウ① いとおとなしければ

おどろく(驚)《動四》

— き困二八ウ③ おどろきて

おなじ《形》

— 一 四ウ⑨ おなじかみにかきそへ

つ

一〇オ⑤ おなじころに

一一ウ⑨ おなじ時雨

一二ウ③ おなじみち

二〇ウ① おなじ世

二二オ① おなじさまに

二四ウ② おなじさまにて

二五オ③ おなじ世ながら

二七ウ④ おなじなかめを

二八ウ⑩ おなし人

三三オ⑥ おなし旅の題にて

三五オ① おなしなかめは

三七オ⑧ おなしはりまの

おにかみ(鬼神) 三三オ⑨

おのこ(男子) ↓ をのこご

おのづから(目) 一八ウ①

おはす《動・補助動・サ変》

— し困五オ③ 見むとておはしたり

— する困三〇ウ⑨ せうとにてそおは

— すれ六オ① おとなしくおはすれ

は

おはりのくに(尾張國) → をはりのく

に

おほかた(大方) 一三オ⑩・三三ウ③

おほきおとど(太政大臣)

cf だいじやうだいじん

おほし(多)《形》

— 一 困一〇ウ① おほくさきたちてゆ

くも

一三オ⑤ 鳥いとおほく飛かひ

て

一三ウ⑩ おほくの人の

一九オ⑥ 木のおほくなかるゝ

を

三五オ② おほくつもりたり

三八オ① おほく候ければ

— し 困三五ウ⑤ 跡おほし

— い 困(一五オ⑦) おもひ出るみや

このことはおほ

井川

— き 困八ウ① ひまおほきふはの関

屋

— 一 一オ⑩ 紅葉いとおほき山に

— 一 一 一ウ⑧ ためしおほかれと

おほし(覺)《形》

— 一 困二〇ウ⑨ 御返事とおほしくて

おほしま(大島)

cf いづの

おほしめしわする(思召志)《動下二》

— 一 困二二オ⑥ おほしめしわすれさ

りける

おほす(生)《動四》

cf はぐくみ

おほす(思)《動四》

— さ 困三一ウ③ 哀とおほさん

おほつかなさ(名) 二一ウ④・二二オ②

・二七オ⑨・三一オ②・三三オ⑦

おほつかなし《形》

— し 困三三オ⑨ いとおほつかなし

— き 困二〇ウ⑥ おほつかなき程に

おほゆ(覺)《動下二》

―ゆ 四一五ウ② 哀にもやさしくもお

ほゆ

三一オ⑧ なをさりならすおほ

ゆ

―ゆる 四六ウ③ 哀におほゆるまゝに

八オ⑥ さめか井の水とそお

ほゆる

三四オ① やさしくおほゆる

も

おほみやのゐんのごんちゆうなごん(大

宮院権中納言) 二二ウ②

おほるなり(形動)

―なる 四二六オ*② おほるなる月は

おほゐがは(大井川) 一五オ②*⑦

おほん(御) ―おん

おも(面) 九オ①

おもかけ(面影) 一三ウ②・一五オ⑤・

二七オ*③・二七ウ*⑥・三一ウ*⑧

おもしろし(形)

―し 四七ウ⑩ いとおもしろし

一二ウ⑤ いとおもしろし

一四オ⑩ 道いとおもしろし

―き 四三三オ*⑥ おもしろきかくら

の詞

おもと(地名) 九ウ⑨

おもひ(思) 三四ウ*①

おもひあまる(思念)(動四)

―り 四二二ウ⑥ せめておもひあまりて

おもひいづ(思出)(動下二)

―で 四二三ウ② おもひ出られて

一三ウ⑨ 昔もおもひいてられ

て

一六オ⑤ まつ思ひいてらる

一六ウ⑨ 人の詞もおもひいて

らる

一七ウ① 詞まておもひ出られ

て

〔二七オ*④〕 都人おもひもい

ては

二九ウ⑦ おもひいてられて

―づる 四一五オ*⑦ おもひ出るみこ

やのこと

おもひおく(思置)(動四)

―き 四三三オ*⑤ 思ひをきつる露を

―く 四六オ*⑨ おもひをくくろと

ゝめは

おもひおこす(思遣)(動下二)

―せ 四三二ウ⑩ 旅の空をおもひをこ

せて

おもひかく(思掛)(動下二)

―け 四二一四ウ*⑩ わたらむとおも

ひやかかし

おもひしる(思知)(動四)

―り 四一オ⑨ 思ひしりなは

四ウ④ あなかに思ひしりて

おもひすつ(思捨)(動下二)

―つれ 四二二ウ② やすく思捨れとも

おもひたつ(思立)(動四)

―ち 四二二ウ④ あつまち思たちし

おもひたゆ(思絶)(動下二)

―え 四三〇オ① おもひたえたり

おもひつづく(思続)(動下二)

―け 四八オ⑦ まつおもひつゝけゝる

九ウ⑤ おもひつゝけゝる

―くる 四二二ウ① …とぞ思ひつゝく

る

―くれ 四一ウ① さらにおもひつゝく

れは

おもひつらぬ(思連)(動下二)

―ね 四二五ウ② 事ともを思ひつらね

て

おもひなる(思成)(動四)

—り 團二ウ⑨ 出なんとそ思ひなりぬ
る

おもひなる(思馴)(動下二)

—れ 團二五ウ⑥ おもひなれにし春の

空

おもひね(思寝) 三一ウ⑤

おもひやる(思遣)(動四)

—る 團二七ウ⑥ おもひやるさへ

三三オ⑧ おもひやるにも

—れ 團二二ウ⑥ はるくとおも

ひこそやれ

—れ 團二二ウ⑨ おもひやれ袖の

しつくと

おもひをく(思置) —→おもひおく

おもひをこす(思遣) —→おもひおこす

おもふ(思)(動四)

—は 四オ⑤ 跡をおもは

一〇ウ④ おもはさりしを

—ひ 團五オ④ 物心ほそしとおもひた

る

一四ウ⑩ わたらむとおもひ

やかけし

二一ウ⑥ おもひこそやれ

二七オ④ おもひもいては

三三ウ⑤ いかはかりかと思

ひつる

三四オ③ こなたを思ひてよみ

たり

三四ウ④ いととおもひてきこ

ゆる

—ふ 正三六オ⑦ 子を思ふこて

—ふ 團一オ⑦ 世をおもふ情

一ウ③ 思ふ人もやあらん

二ウ② 子をおもふ心のやみ

七オ① 物かなしとおもふに

七オ③ ふるさとおもふ袖ぬ

れて

八オ② 打過ましやとおもふに

一〇オ② わかおもふこと

一八ウ④ しるへとそおもふ

二三オ⑧ おもふ計もいかくと

二七オ⑥ おもふまゝに

三一オ④ 子をおもふつる

三一オ⑩ 子をおもふかたは

三四オ⑩ 子をおもふおもひ

を

—へ 團三〇オ⑥ ひとりおもへとも

三五ウ⑧ 思へはいやしき

三六ウ⑥ これを思へは

おや(親) 一オ⑥・五ウ⑥・六ウ③・

三五ウ⑦

おやこ(親子) 二オ⑧

およぶ(及)(動四)

—ば 團一三オ③ ふてのをよは

一四ウ① 嵐をよはぬなめり

一五オ⑧ かすもをよはし

三八オ⑧ ひやうてうにもをよ

はす

おり(折) —→をり

おりから(折柄) —→をりから

おりたつ(下立)(動四)

—つ 團一八オ④ おりたつたこのあ

ま衣

おりたつ(織裁)(動四)

—つ 團一八オ④ おりたつたこのあ

ま衣

おろす(下)(動四)

—す 團一七ウ⑩ 雪よりおろすふし

河の

おん(お・おはん)(御)

cf 一うた・一うへ・一かたがへ・

一かへし・一かへり・一かへりご

と・こひしき・そしよ・
たづね・たび・な・まへ・
—まあり・もと・むすめ・み
おんかた(御方) 二二ウ③

cf みやの—

か

か(香)二六ウ*⑧

かえて(楓) —かへで

かがみ(鏡)《地名》七オ⑤

かがみ(鏡)

cf かめの—

かかり(斯有)《動ラ変》

—る困二三ウ② かゝる事とも

二八オ⑥ かゝる事こそなと

かかる(掛)《動四》

—り困二二ウ⑧ 心にかゝり給て

三七オ*⑧ 人に情もかゝりけ

り

—る困一八ウ⑥ はこねちにかゝる

—る困一四ウ*⑦ 雲かゝるさやの中

山

一七オ*②

あら磯なみのかゝるねさめは

一八ウ⑩ はこねちにかゝるな

りけり

二四ウ*⑩ なみだのかゝるか

な

cf くゆり・くれ・こえ—

かきあつむ(書集)《動下二》

—め困六ウ④ かきあつめたり

二二ウ⑩ かきあつめて

二六ウ② 歌ともかきあつめて

三五ウ*⑤ かきあつめたる跡

かきあふ(書歌)《動下二》

—へ困二四オ*⑩ 涙もふみもかきあ

へす

かきあふ(搔敢)

—へ困二四オ*⑩ 涙もふみもかき

あへす

かきおく(書置)《動四》

—か困三ウ⑧ 代々にかきをかれける

—く困一オ④ かきをく跡

かきくだす(搔下)《動四》

—さ困三七ウ*① かきくたされは

かきくだす(書下)《動四》

—さ困三七ウ*① かきくたされは

かきくらす(搔暗)《動四》

—し困八ウ③ かきくらしつる雨

二三ウ*⑧ かきくらし雪ふる

空

かきくる(搔暗)《動下二》

—れ困二三オ*① なかむる空もかき

くれて

かきさす(書止)《動四》

—す困二七オ⑦ かきさすやうなりし

を

かきそふ(書添)《動下二》

—へ困三ウ⑩ かきそへたる歌

四ウ⑨ おなしかみにかきそへ

つ

五オ⑤ 又かきそへたり

三三オ③ かきそへてやる

三三オ⑨ 書をへたる

—ふ困三三ウ② ことはを書そふ

かきつく(書附)《動下二》

—け困四ウ⑧ …とかきつけたる

六オ④ こまにかき付て

一〇オ① かきつけて奉る

二四オ⑨ かき付ける

二五オ⑥ さま／＼にかきつけ

て

三一ウ④ かきつけ奉る

―く四三ウ⑤ かたはらにかきつく

五ウ④ かきつく

一六オ⑧ 臥なからかきつく

三三ウ⑦ 〃とかきつく

三四オ⑨ 返しをかきつく

三五オ③ 又かきつくへし

かきつくく(書続)(動下二)

―け四六ウ② かきつくけぬるも

三一オ③ かきつくけて

かきとどむ(搔留)(動下二)

―め四四オ*② かきとゝめたるもし

ほ草

かきとどむ(書留)(動下二)

―め四四オ*② わかの浦にかきとゝめたるもしほ草

かきなす(書為)(動四)

―し四三オ⑦ かきなし給へるも

かきのこす(書残)(動四)

―困さ三六ウ*⑨ かき残されぬふて

のあと

かきやる(書遣)(動四)

―る四二四オ⑦ さまゝにかきやる

程

かざり(限) 三ウ⑨

かきをく(書置) 〃かきおく

かく(斯) 二二ウ⑦・二三ウ③

cf 一て

かく(書)(動四)

―か困一五ウ④ えかゝす

―き四六オ⑧ あはれにかきて

一三オ*③ 絵にかきてまし

二二オ② おほつかなさなとかきて

二五オ⑧ やさしくかきて

二五ウ② かきたるも

二六オ④ かききこえたりしを

二六ウ⑤ 心ちしてなとかきて

二八オ⑩ かけとゝめてとかきて

て

二九オ② 恋しきなとかきて

二九ウ⑨ やさしくなとかきて

三一ウ⑨ かきてたてまつりし

三四ウ② 文かきて

三四ウ⑤ なかめ明してなとかきて

三四ウ⑧ くる郷恋しきなとかきて

きて

―く四二四オ⑤ 文ともかく中に

二五ウ⑩ 文かく中に

かく(掛)(動下二)

―け困五オ*⑥ たゝなみたはかけし

二五オ*⑩ 袖に浪はかけしを

―け四一四ウ*⑩ 〃とおもひやか

二〇オ*⑩ うき波はかけもせし

二三オ④ 心にかけまいらせつるを

(三六オ*③) 命をかけひとて

三七オ*② やよやいさゝかかけとへ

―く四四オ④ よこ浪かくなはま千鳥

cf おもひゝかけて

かくて(副) 二二オ①

かぐら(神楽) 一ウ⑤・三五オ*⑥

かくれなし(形)

―く四二二ウ② 御名もかくれなくこそは

かけ(蔭) (一三ウ*⑤)

cf やまゝ

かけ(影) 二ウ⑤・一三ウ*⑤・三八ウ

*③

cf あさひー・ありあけのー・つきー

かけこす(掛越)(動四)

―す 囀一三才*⑧ 波のかけこす袖に見なれて

かけて(連語)

一才⑦ ゆふれかけてわたり

三六ウ*⑥ 行さきかけてさま

くゝに

かけとどむ(掛留)(動下二)

―め 囀九才⑧ かけとめたるうき橋

二八才⑩ けふまではかけとめて

かけひ(算) 三六才*③

かこつ(託)(動四)

―ち 囀三七才*⑦ のこる蓬とかこちける

三七ウ⑦ 残るよもきとかこちける

三八才⑤ 御歌をかこちて申されける

かさ(笠) 一二ウ②*④

かさなる(重)(動四)

―る 囀三二ウ*⑨ 山ちかさなるをちのしら雲

かさぬひのさと(笠縫里) ハウ*⑦

かさぬひのむまや(笠縫駅) ハウ⑤

かしこし(形)

―き 囀三五才*⑦ されはかしこきためし

かず(数) 一五才*⑧・三八才*⑥*⑦

かすかなり(形動)

―に 囀七ウ② 月の光かすかに残りたる

かずならず(連語)

―ず 囀三六才*⑧ 身は数ならず

―ぬ 囀一才⑧ かすならぬ身ひとつ

かすみ(霞) 二五ウ④・二七才*①⑨・二七ウ*③

かせ(風) 一一ウ①・一六ウ⑨・二〇ウ③・二五才*①・二八ウ*②・三五ウ*①・三六ウ*②

cf あめー・いそやまー・うらー・うらやまー・かはー・なみー・まつー・わかのうらー

かぞふ(数)(動下二)

―ふれ 囀一七ウ⑨ かそふれは

かた(方) 三ウ⑩・九才⑩・一〇ウ*⑨・一七才*⑨・二〇才*⑦・三一才*⑩・三二才*⑧・三六才*⑥・三七ウ*①

cf おんー・かたー・こしー・すゑつー・はじめつー・ひるつー・みやのおんー・やらむーなし・やるーなし

かた(瀉) 一〇才*③

cf きよみー・ひー・なるみー

かたかた(片方) 九才⑩

かたし(難)(形)

cf あけー・ありー・しのびー・とどまりー

かたがへ(方違)

御ー 二三才⑦

かたはら(傍) 三ウ⑤・四ウ③・一四才⑤・二〇ウ④・三三才②

かたはらい(し)(形)

―く 囀三四才② かたはらいたくなん

かたひく(片引)(動四)

―く 囀(一〇才*③) かたひくしほも

かたぶち(片淵) 九ウ*①

かたみ(形見) 四才*③⑧・二一才*④

三四ウ*⑥

かたみに(副) 五ウ*⑥

かたる(語)(動四)

―る 四一六オ*⑩ 人にかたるな

一八オ*⑤ 人にかたるな

―る 四三二ウ*⑤ かたるもとをし

―れ 四三二オ*③ かたればちかき

かち(構) 三六オ*⑤

かちびと(徒人) 八オ③

かつ(且)

へ―は 六ウ②

かなし(形)

―く 四三ウ⑤ いま更かなしくて

―けれ 四一オ⑩ うれへこそやるかた

なくかなしけれ

三オ⑤ 心ほそくかなしけれ

と

cf もの―

かぬ(兼)(動下二)

cf かり―・なぐさめ―

かねて(副) 六オ②

かは(川) 九オ⑦⑩・一五オ③・一九オ

⑤・一九ウ⑦

cf あさ―・おほる―・きく―・すみ

だ―・はや―・ふじ―・まりこ―

・やす―・わらしな―

かはおと(川音) 一四ウ⑨

かはかせ(川風) 一八オ*①

かはぎり(川霧) 七ウ*⑦

かはす(交)(動四)

cf たのみ―

かはら(河原) 一五オ④

かはる(変)(動四)

―ら 四三ウ④ さなからかはらぬをみ

る

八オ⑩ 今もかはらざりけり

一一ウ⑦ 比さへかはらねは

一三ウ⑤ かはらぬかけを

二九オ*③ 見し世こそかはら

さるらめ

二九オ*③ みしまゝにかはら

ねと

―り 四三三ウ*⑥ 人にかはりて

かひ(甲斐) 三〇オ⑥

かひ(映) 一八ウ*④

かひ(貝) 二六ウ③

cf うつせ―・わすれ―

かひあり(動ラ変)

―る 四一八ウ*④ 山のかひあるし

るへと

二七ウ*② かひある浪のたち

かへる

かひなし(形)

―し 四三三〇オ⑥ 其かひもなし

―き 四一オ⑤ かひなき物は

かふ(交)(動四)

cf とび―

かふ(変・替)(動下二)

cf そめ―・たち―

かべ(壁) 一オ①

かへし(返) 二一ウ⑧・二二オ⑤・三四

オ⑨

御― 二三オ③

cf かへり・かへりごと

かへす(返)(動四)

―し 四六ウ⑥ 車はかへしつ

かへすがへす(副) 一オ④・一三ウ③・

三四オ②・三六ウ*⑨

かへで(楓) 一五ウ*⑧

かへり(返) 二四ウ⑧

御― 六オ⑦

cf かへし・かへりごと

かへりく(帰来)(動力姿)

—こ困五オ*① はやかへりこん

かへりごと(返事) 四オ⑥・四ウ①・六

オ⑧・二一オ⑧・二五オ⑥・二七オ

⑧・二八ウ③・二九オ⑦・三一ウ⑩

三三オ③⑨

御—二〇ウ⑨・二三ウ⑥・二四オ①

・二六オ⑥・三一オ⑧・三四ウ

⑧

cf かへし・かへり

かへりみる(願)(動上二)

—み困三七オ*⑤ 身をかへりみす

—みる困二ウ③ 道をかへりみる恨

かへる(返・帰)(動四)

—る困一一ウ*⑥ にしきいろかへる

まで

三三オ*⑤

ゆきてはかへるを

cf きえ—・さし—・たち—・よせ—

がほ(顔)(接尾)

cf あり—なり・しらず—なり・しる

べ—なり

かまくら(鎌倉) 一九ウ⑨・三六オ*⑧

かみ(紙) 四ウ⑨

かみ(神) 一〇オ*③*⑤*⑦*⑧・一八ウ

*②

—たち 一ウ⑤

cf みしまの—・むすぶの—

かみなづき(神無月) —↓かんなづき

かめのかがみ(亀鑑) 二ウ④

かもめ(鷗) 一三オ④*⑦

かやや(茅屋) 一一ウ⑩

かよふ(通)(動四)

—ふ困八ウ⑩ 人かよふへくもあらね

は

三二オ*④ 旅ねの床にかよふ

三四ウ*⑩ かよふらし

からうじて(副) 一九オ④・三二オ⑩

からす(枯)(動四)

—す困六オ*⑥ なてしこ霜にからす

な

かりかぬ(借兼)(動下二)

—ね困一六オ② 宿かりかねたりつれ

と

かりそめなり(形動)

かりそめ困三三オ*⑦ かりそめの草

の枕

—に困三四オ*⑩ かり初にたち別れ

ても

かりのよ(仮世) 九ウ*③

かりまくら(仮枕) 一六オ*⑨

かる(借)(動四)

—ら困一九ウ*⑥ 宿やからまし

—り困(二六オ*⑨) みるめはかりを

—る困八ウ*⑦ 雨にやとかるかさぬ

ひのさと

かる(刈)(動四)

—り困(一六オ*⑨) みるめはかりを

—る困八ウ*⑦ 雨にやとかるかさぬ

二四ウ*⑥ めかり塩やく

二五オ⑤ めかりしはやく

二五オ*⑨ めかり塩やく

かる(枯)(動下二)

—れ困六オ*⑩ 霜にもかれし

かなづき(神無月)

二二オ⑤ 神無月十六日

二二オ*⑥ うら風さえて神無

月

き

き(木) 一九オ⑥・二九オ*⑧

cf しほー・もしほー

きえかへる(消返)(動四)

ーり困二三オ*① きえかへりなかわる空

きえをあらそふ(消争)(連語)

ーふ困二オ⑨ きえをあらそふ年月

ききく(聞来)(動力変)

ー二困一七オ*① よそに聞こし清見

かた

ききふるす(聞旧)(動四)

ーす困二九ウ*⑤ ききふるすらむ時

鳥

きく(聞)(動四)

ーか困四ウ② 人にきかせ奉りたくて

二三ウ*⑤ たつ日をきかぬう

らみ

二六オ*③ またきかさりし

二九ウ③ 郭公きかて

三〇ウ⑩ 人にはきかれし

ーき困一〇ウ⑤ ありときくしかと

一二ウ② いふをきいて

一五オ③ きくしにはたかひて

二四オ④ たよりありときいて

二九ウ*② 二声をけふそきく

つる

三〇オ③ 人聞たりなといふ

三〇オ③ いふをきいて

ーく困三五オ*⑥ かくらの詞歌とき

く

ーく困一四オ*⑦ みつけの里ときく

からに

(二五オ*①) ありとはかりは

きく川

二五オ*① 風はきくこちし

て

三〇オ① 人つてにきくは

三〇オ⑨ まれにもきく人有ける

る

ーけ困三七オ*⑥ その世をきけは

きくかは(菊川) 一四ウ③・一五オ*①②

きこえあぐ(聞上)(動下二)

ーげ困一ウ⑨ 世々にきこえあけたる

三六オ*⑨ 聞えあけてしこと

のは

きこえあふ(聞敢)(動下二)

ーへ困二二ウ⑦ かくとたにきこえあ

へす

きこゆ(聞)(動下二)

ーえ困六オ⑦ からすなと聞えたれは

二三オ③ 成ゆくなと聞えた

し

二三ウ② かゝる事とも聞え候

二五オ② 中将ときこえし人

二六オ④ かききこえたりしを

二八ウ③ 消なはときこえたり

し

三〇ウ④ 斎宮ときこえしに

ーゆ困二二ウ⑨ をとつれきこゆ

三一ウ① こひしきときこゆ

ーゆる困九オ④ 神とそきこゆる

一五ウ⑤ くにそをとつれきこ

ゆる

二一オ⑧ 人をそ又きこゆる

二二ウ③ 権中納言ときこゆる

二二オ⑧ みくしけ殿ときこゆる

るは

二四オ① 返事はかりをそきこ

ゆる

三〇ウ② 新中納言ときこゆる

は

三二オ⑨ さはきなきときこゆる

も

三四ウ④ おもひてきこゆるま

ゝに

ゆれ四二四オ⑧ はげしくきこゆれ

は

きす(着)(動下二)

cf うちー

きたしらかはどの(北白河殿) 二二ウ⑤

きぬ(衣) 一六ウ②

きほふ(競)(動四)

ふ困三オ③ 嵐にきほふ木葉さへ

きみ(君) 六オ⑤・八オ⑧・三七ウ⑤

・三八オ⑥

cf あざりのー・あねー・おとうとの

ー・ごんちゆうなごんのー・じじ

ゆうのさいしやうのー・ためかぬ

のー・ためもりのー

きみきみ(君々) 三五ウ③

きやう(経)

御ー 二八ウ⑦

きやうかう(行幸) 二二オ⑦

きやうこくのちゆうなごん(京極中納言)

三〇ウ②

きゆ(消)(動下二)

え困二八ウ② かせに消なは

二八ウ⑤ きえもせし

きよがき(清書) 三二ウ④

きよみがせき(清見関) 一六ウ①

きよみがた(清見瀉) 一六ウ③・一七

オ①

きり(霧) 七ウ⑤・八オ①・二〇オ⑤

cf あさー・かはー

きる(着)(動上二)

き困二二ウ② 月さへかさきたりと

一六ウ④ ぬれきぬいくかさね

きつ

cf うちー

く

く(米)(動力変)

こ困三三ウ①

き困一〇オ⑥

ふりすてゝこし

しほのさしてそきつ

る 一四オ⑦

里 たれかきてみつけの

cf おとづれー・かへりー・ききー・

こしかた・したひー・すみー・た

づねー・なれー・まよひー・めぐ

りー・わけー

くが(陸) 三六オ⑤

くさ(草) 二九オ⑧

cf もしほー

くさし(形)

cf なまー

くさのまくら(草枕) 二二ウ⑨・三一ウ

①・三二オ②・三三オ⑦⑩

くずはら(葛原) 一オ④

くだく(碎)(動下二)

ーくる困二六ウ⑦ 我そくたくる

くだす(下)(動四)

ーさ困三二ウ④ くだされたる

cf かきー

くだる(下)(動四)

ーら困三八ウ⑤ くだられける

ーり困三三ウ④ くだりし程の日記

三四ウ③ くだり給ひし後

ーる困一九オ⑧ さかしき山をくだる

くち(口) 三四オ①

くちば(杓葉) 一一ウ①

くちはつ(朽果)(動下二)

―て困三六ウ*⑤ さて朽はては

―て困一七ウ*④ 朽はてしなからの

橋

くつす(屈)(動サ変)

cf うち―

くに(国) 三オ①

cf とはつあふみの―・はりまの―・

ひのもの―・みちの―・みのの

―・やまとの―・をはりの―

くはこくもんゐんのしんちゆうなごん

《人名》 三〇ウ①

くみあはす(組合)(動下二)

―せ困一三ウ⑩ くみあはせたる舟

くむ(汲)(動四)

―み困三七オ*⑨ ひとつなかれをく

みしかは

―む困八オ③ 立よりてくむめり

くも(雲) 一四ウ*⑦・一九オ*①・二二

オ*⑦

くもで(蜘蛛手) 一一オ*⑥

くもる(曇)(動四)

―ら困二ウ⑤ くもらぬ影

―り困二六ウ*⑩ はれくもりなかも

てわたる

―る困三四ウ*⑦ なみたにくもる月

かけ

くもぬ(雲居) 二三オ*②・二三ウ*⑨・

三〇オ*⑤

くゆりかかる(燻掛)(動四)

―る困一六ウ⑥ くゆりかゝる煙

くらし(暗)(形)

―く困一九ウ⑦ いとくらくてたとり

わたる

―き困一一オ④ くらきにはしもみえ

す

くらす(暮)(動四)

cf こえ―・ふり―

くらす(暗)(動四)

cf かき―

くらべみる(比見)(動上)

―みよ困二七ウ*③ くらへ見よ

くる(暮)(動下二)

―れ一六ウ⑤ 程なく暮て

二二ウ⑨ 年さへくれぬる心ほ

さ

二五ウ③ 程なく年くれて

くる(暗)(動下二)

cf かき―

くるし(形)

―く困七ウ① くるしくてうちふしぬ

―けれ困一六オ⑦ くるしければ打ふ

したる

くるま(車) 六ウ⑥

くれかかる(暮掛)(動四)

―り困七オ① 日は暮かゝりて

―る困一六ウ① 暮かゝる程

一九ウ① 日暮かゝるに

くれはつ(暮果)(動下二)

―て困七オ⑥ 暮はてゝ行つかす

一オ① 日もくれはてぬ

二九オ*③ 暮はてし春より夏

に

くろし(黒)(形)

―き困二二ウ⑩ くるき鳥のむれぬた

る

くわうたいこうぐうのだいふ(皇太后宮

大夫) 三七ウ⑧

け

けちめ(名) 七ウ⑩

けふ(今日) 二ウ①・七ウ①・一五オ②

・一八オ②・二三オ⑤・二八オ⑨・
二九ウ*②・三七ウ*⑥

けぶり(煙) 一六ウ⑦・一七オ③⑥*⑩・

一七ウ*⑤・二八ウ*①・三四オ*⑦・

三四ウ*①

けんわう(賢) 一オ⑥

こ

こ(子) 一オ②・二オ④・二ウ②・一三

ウ⑦・三〇ウ⑨・三一オ*④*⑩・三

四オ*⑩・三五ウ*⑥・三六オ*⑦

―ども 六ウ①・八オ*⑧

御― 三〇ウ⑥

こう(国府)

cf いづの―

こえか(る)(越果)(《動下二》)

―る 困一八ウ*③ わかこえかゝるは

こねち

こえくらす(越暮)(《動四》)

―す 困一四ウ*④ こえ暮すふもの

さと

こえはつ(越果)(《動下二》)

―て 困一九オ④ こえはてたれと

こがのだいじやうだいじん(久我太政大

臣) 二二オ⑨

こがる(焦)(《動下二》)

―る 困一五ウ*⑨ 袖の色そこかる

ゝ

(三〇ウ⑦)

うきこかるゝ藻

こぎゆく(漕行)(《動四》)

―く 困二〇オ*⑦ こき行かたを見せ

しとや

こきんのじよ(古今序) 一七ウ①

こぐ(漕)(《動四》)

―が 困三〇ウ⑦ うきこかるゝ藻かり

舟

こぐわつ(五月) ーさつき

ここ(此処) 七オ⑦・七ウ⑩・八ウ⑧・

一八オ*⑩

ここち(心地) 一〇ウ②・一一ウ③⑦・

一五ウ①・二〇オ⑨・二五オ*①・

二六ウ④・二七オ⑨・二八オ①・二

九オ*⑨

こころ(心) 五オ*⑦・六オ*⑨・六ウ③

・八オ*④・九ウ*①・一〇オ*⑤*⑧

・一五ウ*⑥・二二ウ⑧・二三オ④・

二七ウ*④・二八オ③・三二ウ*⑧・

三三オ*④・三五オ*⑧・三七オ*⑩・

三八オ③・三八ウ*②

こころから(連語) 一八オ*④・二四オ

*②

こころぐるし(形)

―けれ 困三ウ② いと心くるしければ

こころづかひ(心遣) 五ウ⑩

こころづくしなり(形動)

―に 困三〇オ⑩ 心つくしにうらめし

けれ

こころつくす(心尽)(《動四》)

―し 困二九ウ*① 人よりも心つくし

て

こころのやみ(心闇) 二ウ③・三二ウ⑥

・三四オ②

こころぼそさ(心細) 二〇オ*③・二二

ウ⑩・二八オ⑧・三四オ*⑧

こころぼそし(形)

―く 困三オ⑤ 心ほそかなしけれど

一四ウ② 心ほそく哀也

―し 正一三ウ⑨ いと心ほそし

―き 困二オ⑩ あやうく心ほそきなか

ら

cf もの―

こころやすし《形》

―く 困四ウ① 心やすく哀なるにも

こころゆく《動四》

―き 困(五オ*⑦) こころのゆきて

こころよはし《形》 ―こころよわし

こころよりほかに《連語》

八ウ④ 心より外に…といふ所
にとまる

こころよわし《形》

―く 困六ウ④ 心よはくてもいかゝと

て

こころをやる《連語》

―り 困三三オ① 心をやりて哀なれば

こしかた《来方》 六ウ⑩

こじつしゆ《五十首》 三二ウ③⑤・三三

ウ②

こしへのしやう《越部莊》 三七ウ⑨・三

八ウ④

こしらふ《拵》《動下二》

cf いひ―

こす《越》《動四》

―す 困一六ウ① 岩こす浪

二四ウ*① いそこす浪

二五オ*① いそこす風

cf かけ―

こずる《稽》 二九オ*④

こそ《去年》 二九オ①*⑧

こたふ《答》《動下二》

―ふる 困一七オ⑧ さたかにこたふる

人

こと《事》 一オ③・二オ④・三オ④・六

オ③・一〇オ*②・一五オ*⑦・二一

オ⑤・二二ウ③・二四オ⑦⑨・二六

オ⑩・二七ウ⑩・二八オ⑥・二九ウ

⑦・三三ウ⑨・三七オ*④

―ども 二三ウ②・二五ウ②・二六オ

④・三一オ②

こといみ《言忌》 五オ⑧

ことし《今年》 三三ウ⑩

ことづく《託》《動下二》

―け 困二〇ウ⑦ 山ふしのたよりにこ

とつけ申たり

こととふ《言問》《動四》

―は 困一〇ウ*⑧ こといはむ

一六ウ*③ 岩にこといはむ

ことなり《形動》

―に 困四ウ⑧ ものよりことに哀にて

二四オ⑤ ことにへたてなく

二九ウ⑧ 此文こそことにやさ

しく

―なる 困三八オ② ことなる御せう

にはあらて

ことのは《言葉》 三六オ*⑩

ことば《言葉》 一ウ⑤・一六ウ⑧・一七

ウ①・三二オ⑥・三三ウ②・三五オ

*⑥

cf やまと―

ことはり《理》 ―ことわり

ことはる《判》 ―ことわる

ことやま《他山》 一四ウ②

ことわり《理》 三六ウ*⑩

ことわる《判》《動四》

―れ 困三八オ*⑦ よもきかかすをこ

とはれ

こなた《此方》 二九ウ*⑥・三四オ③

こにふだうだいなこん《故入道大納言》

三一ウ①

この《此》 一オ⑩・一ウ⑦・四ウ①・五

オ④・五ウ①③⑧・九オ⑩・一〇ウ

⑦・一一ウ⑦・一三オ⑩・二一オ⑦

・二二オ①・二四ウ⑧・二五オ②・

二五ウ①・二七オ⑨・二九ウ⑧・三

○ウ⑤・三一ウ③・三三ウ②・三四オ⑤・三四ウ⑧・三五オ②

このたび(此度) 五ウ①・二三ウ⑩

このは(木葉) 三オ③

このほど(此程) 八ウ*①・二六ウ①

このま(木間) 七ウ⑨

こひし(恋)(形)

―く 四四ウ*⑩ 恋しくは…かへりこ

ん

―し 四二四ウ*⑦ こひしやなれしき

とのあま

―き 四二五ウ⑧ 昔のこひしき程に

三一オ*⑩ 子をおもふかたは

猶そこひしき

こひしさ(恋) 二九オ①・三四ウ⑧

御― 六オ①

こひしのふ(恋偲)(動四)

―ぶ 二四ウ② こひ忍ふおとうとのあ

まうへ

三三オ*④ 恋しのふこゝろや

たくふ

こふ(国府)

cf いづの―

こふ(恋)(動上二)

―ふ 四一五ウ*⑦ とをき都こふとて

―ふる 二五オ⑥ 人こふるなみたの海

こぼる(氷)(動四)

―る 四一八オ① 川風こぼる冬のころ

もて

こぼる(溢)(動下二)

―る 四五オ⑧ 涙のこぼるゝを

こま(駒) 七ウ④*⑦

こまかなり(形動)

―に 四六オ④ こまかにかけ付て

二三オ⑥ こまかに申たく候に

三三ウ⑨ こまかにしるしたへ

こまくら(小枕) ―をまくら

こまやかなり(形動)

―に 四六オ⑦ 御かへりもこまやかに

三四ウ② こまやかに文かきて

こむ(籠)(動下二)

―め 四二五ウ④ かすみこめたるなか

め

こもる(籠)(動四)

―り 四三六オ*⑩ ことのはも枝にこ

もりて

こゆ(越)(動下二)

―え 四一〇ウ⑩ 二むら山をこえて行

に

一一ウ*⑧ むかしもこえし宮

ち山

一二ウ⑥ たかしの山もこえつ

一四ウ*⑦ さやの中山こえぬ

とは

一九オ*⑨ ゆ坂をこえて

―ゆ 四一四オ⑨ さやの中山こゆ

―ゆる 四六ウ⑦ あふ坂のせきこゆる

ほと

一五オ⑨ うつの山こゆる程

こよひ(今宵) 七オ⑤・一三オ⑨・一四

オ④・一五ウ⑩・一七ウ⑥・一九ウ

⑧・二二ウ⑥・二三オ⑦

これ(此・是) 四オ*③⑥・二二オ⑨・

二三ウ⑥・三三ウ*⑤⑨・三四オ③

⑨・三四ウ⑧・三六ウ*⑥

ころ(頃) 三オ①・一一ウ⑦・一七オ⑤

ころも(衣)

cf あま―・たび―・なつ―

ころもで(衣手) 一八オ*①

こゑ(声)

cf あまた―・ふた―

ごんちゆうなごん(権中納言) 二八オ⑦

cf おほみやのゐんのー

「ごんちゆうなごんのきみ」(権中納言君)

二六オ⑩・三四ウ②

さ

さ(然)

「ーしも」 三二オ①

「ーぞ」 九ウ*②・二一オ*②

「ーのみ」 六ウ④

「ーは」 三七オ*⑥

cf さて・さても・さながら

さいう(左右) 一七ウ⑦

さいぎやう(西行) 一三ウ⑨

さいぐう(齋宮) 三〇ウ⑥

cf ふかくさのさきのー

さいしやうのきみ(宰相君)

cf jijiyuのー

さうし(草子)

ーども 三ウ⑧

さえまさる(牙勝)《動四》

ーる 四二二オ*④ いとくさえまさる

らん

さえわぶ(牙佐)《動上二》

ーび 四一七ウ*⑩ さえ佐ぬ

さかし(險)《形》

ーき 四一九オ③ さかしき山をくたる

さかは(酒勾) ーさかわ

さかひ(境) 三七オ*⑧

さかふ(榮) ーさかゆ

さかゆ(榮)《動下二》

ーえ 四三七ウ*④ なをもさかへん

さかわ(酒勾) 一九ウ⑧⑩

さき(先)

cf ゆくー

さきだつ(先立)《動四》

ーち 四七ウ④ さきたちて行旅人

七ウ*⑥ みなもろともに先た

ちて

一〇ウ① おほくさきたちてゆ

くも

さきのうひやう糸のかみ(前右兵衛督)

二一ウ①

さきのさいぐう(前齋宮)

cf ふかくさのー

さくら(桜) 二二ウ*⑦

さざがにの《枕詞》 一一オ*⑥・三六ウ

さしかへる《動四》

ーる 四一四オ① さし帰るひまもなし

さしそふ(差添)《動下二》

ーへ 四三七ウ*③ 八千代のひかりさ

しそへて

さす《動四》

ーし 四一〇オ*⑥ みつしほのさして

そきつる

さす(止)《接尾四》

cf かきー

さすがなり《形動》

ーに 四一六オ② さすかに人のなきや

とも有けり

二八オ⑨ さすかにたもつ御法

のしるし

さぞ(然) ーさ

さそふ《動四》

ーは 四二ウ⑥ 月にさそはれ出なんと

一七オ④ 父の朝臣にさそはれ

て

ーひ 四二三ウ① わかき人々さそひ候

し

ーふ 四二ウ⑩ さそふにもあらず

一〇ウ*③ はま千鳥なきてそ

さそふ

さだいへ(定家) →ていか

さだかなり(形動)

―に^一困^一七オ⑧ さたかにこたふる人

さだまる(定)(動四)

―れ^一困^一三五ウ③ 時さたまれは

さだむ(定)(動下二)

―め^一困^一七オ⑤ つくへしとさためつれ

と

さだめなし(形)

―き^一困^一六ウ⑧ さだめなき命

さつき(五月) 二九ウ③ 五月まで

さて(然) 一オ⑨・二九オ⑩・三六ウ⑤

さても 一ウ⑧・二ウ④・二三ウ⑥・三

七オ⑥

さと(里) 一四オ⑤・一四ウ③④・一

六ウ⑤・一九ウ⑤・二四ウ⑦

cf かさぬひの―・みつけの―

さとびと(里人) 三〇ウ⑨

さながら(副) 三ウ④・九オ①

さはぎ(騒) →さわぎ

さねかたのちゆうじやう(実方中将) 二

九ウ③

さはり(障) 一〇オ⑨⑩

さびし(形)

―き^一困^一二二オ④ あたりさひしき竹

のひとむら

さぶらふ(候)(動四)

―は^一困^一二三ウ③ 御たつね候はさりし

―ひ^一困^一五ウ⑧ 女院にさぶらひ給ふ

二二ウ③ 御かたとてさぶらひ

給ふ

二三オ⑩ 御まいり候ける日

二三ウ⑥ 雪に成ゆくと候し御

返事

二五ウ① 安嘉門院にさぶらひ

し也

三〇ウ⑦ つたはりてさぶらひ

給

三八オ① さまたけおほく候け

れは

さぶらふ(候)(補助動四)

―ひ^一困^一二三ウ① 人々さそひ候しほと

に

二三ウ② かゝる事とも聞え候

しか

三八オ⑧ よまれて候ければ

三八オ⑩ とゝめられて候けり

―ふ^一困^一三八ウ⑤ くらたれける歌にて

候

三八ウ⑤ 新勅撰に入て候

―ふ^一困^一二三オ⑦ こまかに申たく候に

三八オ③ 新勅撰に入て候やら

ん

三八ウ④ よまれて候も

さほ(竿) →さを

さま(様) 三ウ②・五ウ⑩・二二オ①・

二四ウ②・三三ウ③

さまさま(様々) 三ウ③・五オ⑨・一三

ウ②

さまさまなり(形動)

―に^一困^一二四オ⑦ さまゝにかきやる

程

二五オ⑥ 返事さまゝにかき

つけ

三六ウ⑧ さまゝにかき残

されぬ

さまたけ(妨) 三七ウ⑩

さむ(醒)(動下二)

―め^一(ハオ⑤) 夢やさめか井の水

―む^一れ^一困^一三一ウ⑧ さむれはみえぬ

さむし(寒)(形)

―し^一困^一一七ウ⑨ 朝河いとさむし

さめがる(醒井) 八オ①*⑤

さやかなり(形動)

―に困七ウ⑤ あし音はかりさやかに

て

さやのなかやま(小夜中山) 一四オ⑨・

一四ウ*⑦

cf さよのなかやま

さゆ(芽)(動下二)

―え困二二オ*⑥ 旅衣うら風さえて

さよのなかやま(小夜中山) 一四ウ*⑤

cf さやのなかやま

さらに(副) 一ウ①

さりとして(接) 二ウ⑨

さる(去)(動四)

―ら困四ウ③ かたはらさらすなれき

つる

cf たち―

さるほどに(連語) 二九ウ⑨

されば(接) 三五オ*⑦

さわかし(形)

cf もの―

さわぎ(騒) 三二オ⑨

さわぐ(騒)(動四)

cf たち―

さを(竿) 一四オ*③

さんぐわつ(三月) ―やよひ

さんじつしゆ(三十首) 三三ウ⑧

さんみのにふだう(三位入道) 二五オ③

し

しあふ(為敢)(動下二)

―へ困三二ウ④ きよかきもしあへす

しがのうらなみ(志賀浦浪) 三二オ⑧

しきかむもんゐんのみくしげどの(式乾

門院御匣殿) 二二オ⑧

しきしまのみち(敷島道) 一八ウ*②

しぐる(動下二)

―れ困一五ウ*⑧ しくれぬひまも

二二オ*② しくれぬひまも

―れ困一ウ*⑤ しくれけり

―る困二二オ*② さそしくるらむ

―る困二二ウ*⑦ なみたしくるゝ

ほとやいかに

二二オ*⑦ しくるゝ雲に

cf うち―

しぐれ(時雨) 三オ③・七オ②⑦*⑩・

八ウ*②③・一一ウ*⑨・二二ウ*⑨・

二二オ*③

しぐわつ(四月) ―うづき

しげし(繁)(形)

―けれ困三六オ*⑨ 代のまつりこと

しけゝれば

cf ひと―

じじゅう(侍従) 三ウ①⑩・四オ⑥・五

オ②・六オ②・三三ウ⑦

じじゅうのさいしやうのきみ(侍従宰相

君) 三二ウ②

した(下) 二五オ⑦

したがふ(従)(動四)

―ひ困三五ウ*④

みことのまゝにし

したし(親)(形)

―し困一三オ⑩ したしといひしはか

りの人々

したたむ(動下二)

―め困三ウ⑩ えりしたゝめて

したはしげなり(形動)

―なる困三オ⑨ したはしげなる人々

したひく(慕来)(動力変)

―き困七オ⑦ 時雨猶したひきにけり

したふ(慕)(動四)

―は困四ウ*⑥ 行きき遠くしたはれ
て

しづかなり《形動》

―に困三五ウ*① 浪もしつかにおさ
まりて

しづく《零》 三オ⑩・二二ウ*⑩

しなの《信濃》 三五ウ*⑧

しのはら《篠原》 七オ*④

しのひがたし《忍難》《形》

―く困二ウ③ 心のやみは猶忍ひかた

二五ウ⑦ 春の空はしのひかた

く

しのひね《忍音》 三〇オ*④

しのぶ《穂》《動四》

―ぶ困三一ウ*⑥ しのふむかしの夢
のなこり

三四ウ*⑦ しのふなみたにく
もる月かけ

cf こひ―

しのぶ《忍》《動上二・四》

―び困三二オ① さしも忍ひ給へりし

も

しばし《暫》 二六ウ*⑥

しはす《師走》 二三オ⑤ しはすの廿二
日

しふ《集》 一ウ⑧

じふくにち《十九日》 八ウ⑧

じふぐわつ《十月》 ―かんなづき

じふこせ《十五瀬》 一七ウ⑨

じふしちにち《十七日》 七ウ⑧

じふにぐわつ《十二月》 ―しはす

じふはちしゆ《十八首》 三二ウ⑥

じふはちにち《十八日》 八オ⑥

じふるく《十六》 三三ウ⑩

じふるくにち《十六日》 七ウ①・二二オ
⑤

しほ《潮》 一〇オ*③*⑥

しほぎ《塩木》 一九オ*⑩

しほひ《潮干》 一〇オ⑩・二七ウ*①

しほやく《塩焼》《動四》

―く困二五オ⑤ めかりしほやくとあ
る

―く困二四ウ*⑥ めかり塩やくすさ
ひにも

二五オ*⑨ めかり塩やく浦

二八ウ*① あまの塩やくけふ
り

しほる《養》《動下二》
cf うち―

しまつとり《島鳥》 一三オ*②

しみづ《清水》

cf のなかの―

しむ《占》《動下二》

―め困二二オ*③ すそ野に宿しめて

しも《霜》 六オ*⑥*⑩

しやう《莊》

cf こしべの―

しやうじ《障子》 一六オ⑧

しゆく《宿》

cf ひきまの―をの―

しゆんぜい《俊成》 三七ウ⑧

じよ《序》

cf こきんの―

しよくこせん《続後撰》 二二オ⑨

しらくも《白雲》 三二ウ*⑨・三三オ*⑤

しらす《知》《連語》

―する困二二オ*④ いてゝしらする
あり明の月

しらずがほなり《形動》

―に困二四オ*③ たつ日をたにし
らすかほにて

しらなみ(白浪) 一九ウ*⑤・二七ウ*⑤
 しらはま(白浜) 一三オ*②

しる(知)(動四)

一ら困一オ③ 知らざりけりな

六ウ*⑧ 命はしらぬ旅なれと

(一九ウ*⑤) 里の名もしら浪

の

二三ウ⑩ たつ日をしらぬとあ

る

二六ウ*⑧ しらざりし浦山風

も

三六ウ*① ゆくゑもしらぬな

か空

三八オ*⑥ あさの数しらは

一り困一九ウ④ しりたる人もなし

一る困一八ウ*② 神はしるらん

一る困二三ウ*⑨ くも井のあはれを

そしる

cf おもひ・しらす・みー

しる(領)(動四)

cf つたへー

しるし(験) 二八オ④⑨・二八ウ⑦

しるしおく(記置)(動四)

一か困一ウ⑦ しるしをかれたる

しるしつく(記付)(動下二)

一け困三三ウ③ 歌のさまなとしるし

つけて

しるしをく(記置) →しるしおく

しるす(記)(動四)

一し困三三ウ⑩ こまかにしるしたへ

しるべ(名) 五ウ②・一八ウ*④

しるべがほなり(形動)

一なる困一〇ウ② しるへかほなる心

ち

しるし(白)(形)

一き困一二ウ⑩ いとしろき州さきに

一六ウ② 白きゝぬを打きする

しわざ(仕業) 一六ウ⑥

しをる(養)(動下二)

cf うちー

しんちゆうなごん(新中納言)

cf くはこくもんゐんのー

しんちよくせん(新勅撰) 三八オ③・三

八ウ⑥

す

す(動サ変)

せ困三オ⑦ めかれせざりつる程

二〇オ*⑩ よもうき波はかけも
 せし

二八ウ*⑤ きえもせし

三六ウ*⑥ いかにせん

し困三ウ⑨ おくかきなとじて

四ウ⑤ 手習したるを

五オ⑧ こといみしなから

九ウ*④ うき橋にして

一〇ウ② 心ちして

一二オ① いかにして

一五ウ① 心ちして

二〇オ⑨ 夢の心地して

二五オ*① こゝちして

二六ウ② 手ならひにしたる

二六ウ④ 猶なき心ちして

二六ウ*⑥ いかにして

二七オ⑧ 返事し給へり

二七オ⑩ 心ちしてなとあり

二八オ① 心地しなから

二八オ③ こゝろを一にして

二八ウ④ かへりこととくし給へ

り

二九オ*⑨ こゝちのみして

三〇オ⑩ 人わきしけるよ

三〇ウ⑥ 御子にし奉り給へりし
か

三一ウ⑩ かへりことし給へり
三五オ*⑧ 人のこゝろをたねと
して

三八オ④ よもきのみして

す四一一ウ③ 錦をみる心ちす

する困一一ウ⑦ 昔見し心ちするに

一八オ③ いさりするをみても

二五ウ② つましくする事と
も

cf うちくつす・なにとして

すぎゆく(通行)(動四)

―く困九オ② 過行道に目にたつ杜あ
り

すぐ(過)(動上二)

―ぎ困八ウ③ 雨しくれに過て降くら
せは

―ぐ四九ウ⑥ やしろをすくとて

一六ウ① 清見か関をすく

三八ウ① 野中のし水をすくと
て

cf うちー・ゆきー

すくなし(形)

―く困一ウ② まことすくなく
すこし(形)

―く困一二ウ⑥ 松のひゝきすこく
二〇ウ④ のとかにすこくて
―し四一四ウ⑨ 河音いとすこし

すさき(洲崎) 一二ウ⑩・一三オ*⑦

すさび(遊) 一ウ③・二四ウ*⑥

すすぐ(濯)(動四)

―ぎ困八オ*④ 心をすゝきなは

すすむし(鈴虫) 三三ウ*①

すずり(硯) 一〇オ①・一六オ⑦

すその(掘野) 一一ウ⑩・一二オ*③

すたる(麁)(動下二)

―れ困三六ウ*⑤ あしからの道もす
たれて

すつ(捨)(動下二)

―て困一オ⑧ 世をおもふ情にもすて
らるゝ

三五オ*⑧ ひしりの世にもす
てられす

―て困一オ⑥ 人を捨給はぬ政

cf おもひー・ふりー

すのまた(洲俣) 九オ⑦

すま(須磨) 三六オ*①

すみ(墨) 一三オ*②
すみく(往来)(動力姿)

―こ困一二ウ① すみこし人のおもか
け

すみだがは(隅田川) 一〇ウ⑤

すみわぶ(住花)(動上二)

―び困一二オ*⑨ すみわひて
すむ(住)(動四)

―む四二ウ⑩ すむへき国もとむる

一二オ① かくてすむらん

―む困一〇ウ*⑨ 我すむかたのみや
こ鳥

一三ウ① 人々なともすむ所な
り

一九ウ*⑤ あまのすむその里
の名

二〇ウ② あつまにてすむ所

す糸(糸) 一一オ*③・一七オ⑥*⑩・二
一オ*⑨・二九ウ⑩

す糸つかた(末方) 二七ウ⑨

す糸のよ(末世) 三七オ*②

せ

せ

せ(瀬)

cf いく・じふこー・はやー

せうと(元) 二二オ①・三〇ウ⑨

せき(関) 八ウ③・二九ウ*⑥

cf あふさかのー・きよみがー

せきとどむ(塞止)(動下二)

ーめ困二オ⑥ ゆへなくせきとどめら

れ

せきとむ(塞止)(動下二)

ーめ困三六オ*④ せきとめられて

せきのふちかは(関藤川) 八オ⑥*⑨

せきや(関屋)

cf ふはのー

せく(塞)(動四)

ーか困九ウ*② さそせかるらん

せめて(副) 二一ウ⑤

ぜんじどの(前司殿)

cf むさしのー

そ

そうじやう(僧正) 一六オ①

そこ(底) 一三オ⑥

そこはかとなし

ーき困二六オ④ そこはかとなき事共

そしよう(訴訟)

御ー 三八オ②

せう(訴訟) ーそしよう

そく(注)(動四)

cf うちー

そで(袖) 三オ⑩・七オ*③*⑨・一三オ

*⑧・一五ウ*⑨・二一ウ*⑩・二三

ウ*④・二五オ*⑩・三三オ*⑧

そでのみなと(袖襖) 一二ウ*⑨

そなた(其方) 四ウ*⑦・一九オ*①

その(其) 二オ①・一三ウ⑦・一六ウ⑤

・一九ウ*⑤・二三オ③・二五オ⑤・

二八オ④・二九オ⑦・二九ウ⑦・三

〇オ⑥・三一ウ①・三二ウ⑦・三三

オ②・三五ウ*⑦*⑨・(三五ウ*⑨)・

三七オ*⑥・三八オ⑩・三八ウ④

そのはら(園原) 三五ウ*⑨

そばだつ(動下二)

ーて困一九オ① そなたの雲をそはた

て、

そふ(添)(動四)

ーひ困三四オ*⑧ こゝろほそさのい

かにそひけん

ーふ困二八ウ*⑧ 身にそふ友と成に

けり

そふ(添)(動下二)

ーへ困二一オ① なみたをそへて

二六オ*⑧ 都の月を身にそへ

て

ーふる困二八ウ*⑥ ひかりをそふる

あまのもしほ火

cf かきー・さしー・たちー・ふりー

そむ(染)(動下二)

ーむる困二一ウ*⑤ そむるちしほ

そめかふ(染麦)(動下二)

ーへ困二一ウ② くさ葉にそめかへて

けり

そら(空) 三オ②・四ウ*⑦*⑩・一八ウ

*⑧・二一オ*⑩・二三オ*①・二三

ウ*⑧・二五ウ⑦・二六オ*②・三四

ウ*⑥・三五オ*①・三五ウ*①

cf たびのー

そらおそろし(形)

ーき困一四オ*⑧ 旅ねそらおそろ

しき

それ(其) 四オ*⑩・五オ④・三一オ*⑨

・三五ウ*⑤